

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	017200140		
法人名	すまいるモダ株式会社		
事業所名	グループホームすまいる うれし館		
所在地	〒061-1406 恵庭市和光町4丁目8番1号		
自己評価作成日	平成26年2月14日	評価結果市町村受理日	平成26年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・暖かい季節は、庭でのティータイムやバーベキュー、また外出やお散歩を通じ、季節を感じながら日々を楽しんでいただけるよう努めている。
 ・看護職員を中心とし、医療面でも充実したケアを行えるよう努めている。
 ・利用者さんを交えての町内行事への参加、ホームでの避難訓練への協力依頼、会社イベントへ近隣の方々を招待する等、地域とのつながりを大切に持ち続けている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=tr ue&JigvosyoCd=0171200140-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成26年3月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、閑静な住宅街にあり、近くに公園や大型スーパー、温泉施設等がある。洋館風の二階建ての建物で、2ユニットのグループホームを運営している。庭にバラのアーチや東屋が設置されており、天気の良い日はベンチに腰掛けて、お茶やお菓子を楽している。また近くに同法人運営の高齢者アパートもあり、法人主催の夏祭りを合同で毎年開催し、地域の人たちも大勢参加して交流を深めている。地域町内会の花火会や盆踊り等への行事参加やゴミ拾い活動、また、避難訓練等に参加し、協力体制ができるよう積極的に取り組んでいる。事業所内は床暖房が入っており、湿度も適切に保たれている。壁には季節行事の飾り付けや利用者が制作した「貼り絵」の作品、各行事の写真等が飾ってあり、大変心が和み、利用者同士や職員との会話などのコミュニケーションが多く見受けられ、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫し、ケア支援に取り組んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	すまいる基本理念8項目を共有し、日々確認しながら実践努力をしている。	「すまいる基本理念」を事業所内に掲示し、また朝礼時に唱和を行い、職員間で共有してケアの実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	常日頃より近隣の方との交流及び、町内会のゴミ拾いや花見の参加、会社のお祭りの際にはご近所様にも喜ばれる催しの実施。	町内会に加入しており、町内の花火会や盆踊り等の行事やゴミ拾い活動に参加している。法人主催のお祭りの際に地域の人たちが大勢参加し、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内行事への参加や、会社行事への近隣の方からのボランティア協力を通し、その中での関わりから、認知症への理解を深めていただけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、事故報告を含む現状報告を行い、アドバイスをいただきながらサービス向上に努めている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、運営状況や事故報告、活動報告等を行い、参加者から意見や要望を聞き、サービス向上に活かしている。	運営推進会議で使用している「報告書」と「議事録」の作成方法等を再検討するよう期待したい。議事録内容が報告書内容より簡素化されているため、詳細が薄く、わかりづらい面がある。また、家族へ議事録を送付するのが望ましい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2ヶ月に1度、運営推進会議を実施し、市町村担当者と報告し合い、当社の行事にも参加して頂いている。	運営推進会議に市や包括支援センター職員が参加し、また、市のグループホームネットワークの会会員として市と連携し、協力し合っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	すべての利用者に身体の拘束はしておらず、介護予防の基準を満たしており、玄関の施錠についても夜間帯のみとしている。	身体拘束に関するマニュアルが整備されている。また、研修会も行っており、身体拘束をしないケア支援に取り組んでいる。施錠は夜間のみで、日中は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の講習会等に積極的に参加し、職員全体が共通認識を共有し、防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修参加等を通し理解を深め、今後必要に応じ活用できるよう、体制を作っている最中である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分契約書の内容を確認していただき、不明点については、その都度説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には出来る限り話を聞く様に努め、意見、要望は職員が真摯に受け止め、改善に努めている。	家族の来訪時での面談やケアプラン作成時、電話でのやり取りを行い、意見や要望を聞き入れて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なケア会議の他、必要に応じ業務会議を行い、その意見を反映させている。	月1回の職員会議を行い、活発な意見交換を行っている。また、必要時に随時話し合いをしており、個人面談もしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の経験、力量を把握し、各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験、力量を把握し、内外研修の機会を確保するよう、努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームネットワークの会を他の同業者間との交流の場としている。又、ネットワークの会を通しての研修へも参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が生活に溶け込めるよう、興味を持てる様な事を一緒に捜していく。なるべく不安にさせない様、言葉掛け等をして職員との関係性を作っていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と本人の絆を大切に、家族の知りたい情報と、本人の状況との架け橋になる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況、家族の希望などよく聞いて、良い時、上手くいかない時の例も挙げてよく話し合いをし、安心して過ごせる様、協力して行く。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の好きな事、嫌いな事、寒がり、暑がりであったりと、その人の個性を理解して、対応していける事を考えて支援して行く。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が寂しがってる事、困っている事などを、家族とも連絡をとり合い、協力して支えていくようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外の行事も参加したり、本人が懐かしくなる事も行ったりと、昔の事を大切に、現在も明るく生活出来るよう努めている。	お寺参りなど馴染みのある場所へ出かけたりと、家族と協力しながら、今までの関係を維持継続できるよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さん同士の関係を把握し、職員はその間に入って、関係性を良くするべく働きかけを行っている事で、支え合っている場面も見られている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は自然に薄くなってはいるが、入院されている場合は面会に伺ったり、家族から入院状況の連絡をもらったりしており、必要時は相談や支援に努めるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望は必ず伺い、意向に添えるようにしている。困難な場合は本人とも話し合い、家族とも話し合いの場を設けるようにしている。	利用者との会話や表情、しぐさ等から思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、過去の生活歴や家族から意見や希望を聞き、対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や環境、暮らし方など聞きとりをし、今まで受けていたサービス内容など把握し、本人にとって一番いい状態で生活が継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の始めのバイタルチェックをはじめ、心身状態や、生活状況の中から見出せるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの要望を十分にふまえ、スタッフから得た情報も反映した計画にする様にしている。	ケアマネージャー中心としてケアプランの作成を行っている。月1回モニタリングを行い、カンファレンスにて検討している。また、3ヶ月毎に見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の申し送りやスタッフからの情報も大切に、職員間でのより良い方法を考え、実践や計画の見直しに活かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービス以外にもその時の状況に合わせたサービスや支援にも対応する事もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の回覧や、区からの情報を得るようにし、参加の機会を持つようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診に同行し、生活状況、身体状況、症状などを上申し、指示を仰ぐ事もある。	かかりつけ医には職員同行する機会が多く、受診結果等は家族へ報告している。看護師が常勤しており、利用者の健康を支えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に看護職員と連携をとり、適切な受診、看護を受けられる体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護職員が中心となり、医療機関との情報交換、相談を行っている。又、入院時にスムーズに連携が取れるよう、関係作りも行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	特別な文書化などされてはいるが、一人一人の状況に応じ、ご家族と話し合い、方向を共有する事は出来ている。	重度化、終末期のあり方、方針を書面にて作成しており、同意書を交わしている。急変時は医師や家族、関係者と再協議し、今後の方向性を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全体ではないが、外部研修参加率を上げ、多くの職員が対応できるようにしている。現在、内部研修も頻度を増やし、全職員が定期的実践的訓練を出来るよう考えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域参加型で避難訓練を行ったり研修に参加したりしている。	年2回、消防署立会いの下で避難訓練を行っている。避難経路、避難場所を明確にしており、地域との連携、協力を得ている。災害用備蓄品は本部で一括して用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉、態度により利用者さんを傷つけない様に、注意して対応できるよう心掛けている。	利用者への呼び方は、苗字にさん付けで声かけを行っている。各利用者の気持ちを損ねないように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの思いや希望を聞いたり、その意向に沿えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた過ごし方を大切にしている。また、充実した一日を過ごせるよう働きかけも行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを活かせる身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みへも出来る限り対応している。体調を見ながら皮むきや茶わん拭きを一緒に行っている。	職員がメニュー作成、食材調達、調理を行っている。各利用者に合わせて食事対応をし、行事食や外食も行っている。職員と一緒に会話しながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取状況を観察し、きざみやミキサー、とろみを付けるなど、工夫して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持の為、声かけ、見守り、介助などその人に合わせた対応を心掛けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間を見計らってトイレ誘導をしている。	排泄チェック表を基に、排泄パターンの把握に努め、時間でのトイレ誘導を行っている。できるだけ、トイレで排泄ができるよう、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、必要に合わせヨーグルトや食物繊維を多く摂れるよう工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否のある場合、声をかける人やタイミングを替えるなど工夫をしている。本人の意思で入浴できるよう支援している。	入浴は週2回設定しているが、体調や都合等により、柔軟に対応している。足浴や清拭も行っている。入浴剤を入れ、楽しく入浴できるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	気持ちよく眠れるよう温度や湿度などの生活環境を整えるなどの工夫をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更時は、情報を共有できるよう申し送りをし、症状の変化をよく観察するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者さんの生活習慣や身体状況に合わせて、畑作りや散歩、箱作り等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調や希望に合わせて、散歩や買い物に出かけている。天気の良い日はその季節に合った場所にドライブに行ったりしている。	この時期の外出はなかなか厳しいが、近くの大型スーパーで「蘭の展示会」があり、外出を予定している。春以降は積極的に外出し、散歩や買い物、また地域のボランティアの協力を得て、近くの温泉施設へ外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状での自己管理は紛失や盗られた等の妄想に発展する事もあるため難しく、本人、家族の了承を得て職員管理としている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望の際は、相手先の時間帯なども考慮し電話できるようにしている。本人宛のFAX、手紙はすぐに渡す様にしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間などの共有空間には、季節に応じた行事の写真や作品を飾り、観葉植物などを置く様にしている。トイレ、廊下、浴室には手すりを設置してある。	共有スペースは床暖房で、温湿度も適切に保たれている。壁には季節の飾り付けや利用者が制作した「貼り絵」の作品を飾っており、大変心が和む。リビングでは利用者同士での会話が弾み、団欒、憩いの場となっており、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれるたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間で独りになれる場所はないが、ソファで皆で過ごしたり、食卓で塗り絵や箱作りをしたりと、思い思いに過ごせる空間作りを心がけている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族、本人と相談し、使い慣れた物を持参してもらい居室に置いている。過ごしやすい空間になるよう工夫している。	利用者の馴染みのあるものや使い慣れたものを持参し、居室においている。生活感に溢れ、心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人のできる事、わかる事を見つけ、尊重し、サポートしながら自立した生活を送れるように工夫している。		